

現在、私は出産を経て育児休業中であり、育児に日々奮闘しております。世田谷区には親子の交流の場が充実しており、世田谷つくしんぼ保育園の内に併設されている「みずき広場」の先生と手作りおもちゃの共同研究を行いました。

今回、乳幼児の反応が高かった3つのおもちゃについて、対象乳児 A（生後満 10 か月）を中心に手作りおもちゃによる発育の効果について紹介していきます。

まず一つ目は、「ポコポコビーズ」です。材料はペットボトル等の空の容器 2 つ・消臭ビーズ・ビニルテープを用意しました。作り方は空のペットボトル 1 つ分に消臭ビーズを満杯に入れ、対になるように空の容器と合わせてビニルテープで巻きまします。工夫した点は、消臭ビーズの色を複数色にしたこと、大きさが異なる容器を用意して制作したことです。注意した点は、誤飲防止の観点から中の消臭ビーズが出てこないようにビニルテープを幾重にも巻きました。制作時間は 30 分になりました。



①ポコポコビーズ

実際に乳幼児に与えたところ、消臭ビーズが流れ落ちる様子に興味を示し、目を左右に動かしながら追う姿が見られました。乳児 A は、はじめ、乳酸菌飲料の空の容器を使った小さいポコポコビーズを両手に掴み遊びました。次に、ペットボトル飲料の空の容器で作った大きなポコポコビーズを試したところ、乳児 A には重くて支えることができず、両手から落としてしまいました。乳児 A は小さな方のポコポコビーズに戻って遊び、ゆっくりと流れる消臭ビーズを夢中で見つめていました。

まとめとして、ポコポコビーズのよさは、視覚的な効果が期待できると考えられる点です。特に、色の区別が認識し始める頃に、目で動く物体を見つめること（追視）は脳の刺激になります。改善点は落下の観点から、利用する乳児に合わせた大きさの容器と消臭ビーズの重さを調整すること、接合部分のビニルテープを噛んでしまうことも考えてホースを切ったものを巻いてからテープを巻く方法があることが考えられました。

二つ目は、「お手玉ゴム」です。材料は布・綿・ゴムを用意しました。作り方は折り紙四方の布をお手玉の形になるように縫い、綿を入れます。今回はお手玉を 1m のゴムに等間隔で縫い付けました。工夫した点は、お手玉を天井からつり下げの形にして乳児が自分で動かせるようにしました。注意した点は、お手玉がゴムから外れないように接合



②お手玉ゴム

部を二重に縫い付けたことです。制作時間は 40 分になりました。

乳幼児の反応は、お手玉の柔らかい感触を楽しんだり、ゴムを動かしたりして腕や体全体を使って遊んでいました。乳児 A はハイハイ時期であり、ゴムを動かすとお手玉も動くことに気づくと、しばらく顔を上げて不思議そうに見つめていました。

まとめとして、お手玉ゴムのよさは、微細運動の効果が期待できる点です。微細運動とは、手や指先を使った動作のことです。つまむ動作ができる頃に自らの意思で物を動かせるようになることは乳幼児の自信にもつながります。改善点は、ゴムの強度に気を付けることです。力加減の難しい乳幼児が伸縮性のあるゴムを伸ばすことでゴムが裂けてしまう可能性があり、使用後に安全確認を行う必要性が把握されました。

三つ目は、「ミルク缶シュルシュル」です。ミルク缶の中に物を落としていく遊びである「ミルク缶ボタン」の派生として、布を中に入れて引き出すおもちゃです。材料はミルク缶の空の容器・大判の布・ハンカチ状の薄い布5～10枚を用意しました。作り方は、ミルク缶を覆うように布で縫いつけます。中身の布は端同士を結び、繋ぎます。工夫した点は、隣り合う薄い布を補色同士にして色覚に訴えるようにしました。注意した点は、ミルク缶の切り口に乳幼児の手が触れないように布をギャザーにして縫いました。制作時間は30分になりました。

実際に乳幼児に与えたところ、ミルク缶から少し出ている布に触り、引っ張る様子が見られました。乳児Aは、はじめは興味をもたなかったため、先生が「Aちゃん、これ何かな。」と指差しして布を引き出しました。すると、乳児Aは先生の模倣をして布を勢いよく引き出しました。中に隠れていた布が出てきたことに夢中になり、次々に布を引き出す姿が見られました。



左③ミルク缶シュルシュル
右 乳児Aの遊ぶ様子

まとめとして、ミルク缶シュルシュルのよさは、微細運動と粗大運動の効果が期待できる点です。粗大運動とは、体を大きく使った動きのことです。腕を大きく上げる動作は乳児にとって難しいことであり、遊びながら運動することは発育を促します。改善点は、布を複数枚繋げることです。はじめは5枚で試したところ、遊びがすぐに終わってしまったため10枚、15枚と繋げてみました。乳児

Aは10枚だと少なく、15枚だと多く感じたため、12枚程度が丁度良い枚数でした。乳幼児に合わせて枚数を調節するとよいのではないかと考えました。

手作りおもちゃは豊かな色や形のバリエーションで作ることができ、乳幼児の情操を育てます。市販品に比べて短期間で改良・調整することができ、必要な数だけ用意できる点や費用が抑えられやすい点も大変魅力的です。これらの研究から、乳幼児の手作りおもちゃの効果が把握されました。また、課題では、量やおもちゃの形状によりますが、一つを制作するのに時間がかかる点です。材料の用意から制作完了までの時間を考えると、勤務時間内に作製するのは至難の業です。そのため、地域の人材活用や一部市販品を使うなど制作時間の短縮を考えていく必要があります。また、誤飲防止の事故を防ぐため直径の大きさを確認したり、使用頻度に応じて劣化防止の定期的な安全確認をしたりすることなどが挙げられました。

最後に、みずき広場さんの協力を得て共同研究できたことを感謝いたします。保育現場では、乳幼児一人ひとりと向き合い、発育を促す手助けになるおもちゃを日々研究しています。研究を通して面白いと感じたことは、類似したおもちゃがあっても、おもちゃの名前は異なることに気付いた点でした。それぞれの制作者が愛情を込めておもちゃを名付けていることを知り、温かさを感じました。私は育休明けの勤務で学んだことを活かして働いていきたいと感じました。これからも、教育や保育に関する情報をすすんで発信していきたい所存です。

参考文献・資料

- ・『発達がわかれば子どもが見える』田中真介監修 乳幼児保育研究会編著
- ・『PriPri パレット』2023 6.7 月号 世界文化社
- ・東京おもちゃ美術館「簡易誤飲チェッカー」